

令和7年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

令和8年4月24日

団体所在地 東広島市西条町寺家261

団体の名称 学校法人難波学園

職・氏名 理事長 難波 元實

(施設名 認定こども園さざなみの森)

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

(活動内容)

- ・お米の苗を育てる 苗床管理
- ・田んぼの荒おこし
- ・代掻きをかねた、泥遊び
- ・玉ねぎの収穫
- ・春の自然探検
- ・田植え準備 田植え
- ・サツマイモの苗植え

【7月～9月】(夏季)

(活動内容)

- ・梅雨の季節の自然探検
- ・ホタルの舞うさざなみ田んぼ
- ・田んぼの草とり
- ・おとまりの日 竹のティピーテント作り
- ・おとまりの日 そうめん流しの竹の樋作り
- ・菊間さんと自然探検
- ・藍染め

【10月～12月】(秋季)

(活動内容)

- ・田んぼの案山子づくり
- ・はぜ棒作り
- ・稲刈り
- ・オオスズメバチとの戦い
- ・脱穀 ～ 唐箕
- ・焼いも

【1月～3月】(冬季)

(活動内容)

- ・今田さんによる、里山樹木剪定講習会
- ・とんど 組立て
- ・田んぼの水路造り

活動報告（詳細）

【4月～6月】



（エピソード記述）

これまで地域の方におまかせで、田植えや稲刈り等、部分的に関わらせていただいていたお米作り。今年度からは、そのほとんどの工程を園で取り組むこととなった。苗を育成するところから、代掻き、水路造りなどの田植えの準備、田植え、水はりとその水の管理、草とりなど、春から夏にかけての様々な作業を、園の職員と園児、そして保護者も巻き込みながら進めていった。

生育に関しては化学肥料を使用することなく、また草刈りも除草剤や大型機械に頼らず、手刈りしながら、稲の育ちを見守っていった。6月にはホタルの乱舞が見られた。

大雨の日、日照り続きの日々、水の管理の難しさも痛感し、今後の課題を確認することができた。

【7月～9月】



（エピソード記述）

2023年度から、アイタデを植え、たたき染めにチャレンジしたりしながらも、中々布をしっかりと染めるという体験までたどり着けなかったところ、今年度は、これまでになくたくさんの藍の葉を収穫することが出来た。科学的な媒染方法（オキシドール）を使用しない方法を探り、ブドウ糖を使用することにした。（厳密には、ブドウ糖とはいえども、科学的に生成されたものではあるが・・・）

乾燥させた藍の葉を煮出し、染液を作っていく工程で、オキシドールを使った場合は異臭が立ち込めるため、室内では作業ができなかったり、子どもがその工程・過程にかかわれなかったりといった事態が起きてしまうが、今回、ブドウ糖を使用して、そのような臭いはないため、室内で、子どもとともにその全工程を進めていくことが出来た。

染液から取り出した時には黄色い布が、酸素にふれることで緑→青（藍）へと変化していくさまは、魔法を見ているようで、子どもも大人も「うわあ」と歓声を上げ、その染め具合を喜ぶことができた。

【10月～12月】



(エピソード記述)

園庭とその周辺の里山の植生を理解し、適切に手入れしたり、活用するための基本的な知識や技術を、広島市安佐南区沼田を拠点にされ広島県内外の森をフィールドで木こりをされている今田さんと、広島フィールドミュージアム副代表、ひろしま自然保育アドバイザーの菊間さんから学ぶことが出来た。

田んぼのはぜ棒作りも、竹林の間に生えてきて、日差しが十分でないためひょろひょろと背が高く育っているネズミサシという針葉樹を間伐して用いることにした。

また、樹液の沁み出るコナラの木に群がるオオスズメバチへの対応の仕方も学び、必要なタイミングで剪定することなどの指導を受けた。

【1月～3月】



(エピソード記述)

今田さんに伐採してもらった大きな木々の幹や枝、また指導を受けた園の職員が木々との対話を重ねながら必要に応じて剪定した幹や枝を、廃棄物として扱うのではなく、園庭の環境要素として、さまざまな森の庭を構成する要素として、そのまま保育空間に残し、子どもたちが自由に取り扱えるようにという試みを展開した。

子どもたちは、それらを集めたり、見立てたり、組み合わせたりしながら、お家や基地など、空間を創り出したり、様々なイメージをもって遊びと生活の中に活用している。

また、大人も、あちこちにゴロゴロと転がる丸太や木の枝をみつくろって組み合わせ、必要に応じてネジなどを使って固定し、のぼったり、渡ったり、座ったり、乗り越えたり、身を任せたり出来るようなものを造っている。

身近なもので何でも作ってみるという機運は、子どもや大人に徐々に浸透しつつあり、バケツやコップ、スコップや柄杓、お箸やスプーンなど、こんなもの欲しいと思い立ったら、作り出すという姿があちこちで見られている。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

木こりの今田さん、自然アドバイザー菊間さん、お二人から、それぞれに「樹木の見立て」、「管理の仕方」を学ぶ機会を得た。原生林ではない里山の樹木と、人間の暮らしの関係は、ただ見守る、放置するのではなく、植生を理解して、人が手を入れていくことの大切さを実感しているところである。

- ・ 地域との関わりについて

地域の方から、田んぼの活動、お米づくりを託されて1年。地域の方との関係が断たれたのではなく、これまで「してあげる」―「してもらう」関係であったところ、地域の方と対等な関係として地域の農の営みに参加するという立ち位置に移行してきているところ。地域の水の管理などの話し合いの場にも参加し、ため池の水量を見ながら、限りあるいのちの水を大切に使うことが、地域のネットワーク、信頼関係の輪の中で引き継がれていることを知ることが出来、その輪に加わる責任の重さも感じ、身の引き締まる思いでもある。

- ・ 保護者との関わりについて

田んぼ仕事を地域から託されたということを受けて、園の職員と子どもだけで担うのではなく、保護者の力も大いに活用しなければ持続可能ではないことを痛感している。2025年度においては、代掻き、田植え、夏の2回に分けて行った草とり、はぜ棒立て、稲刈り、脱穀に、保護者の参加を募った。

2026年度は、入園説明会から園の取り組みを伝え、年間予定表の中に農の営み、田んぼ仕事の流れも具体的に謳いスタートしている。大いに参加していただきながら進めていきたい。

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

U R L	
-------	--